



Medical Assistance Team TMAT Non-Profit Organization

災害・国際医療協力隊 ティーマット

News Digest

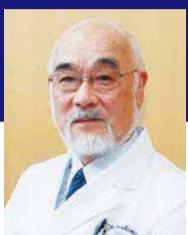
2016年7月1日

No.10

www.tmat.or.jp

発行:特定非営利活動法人(NPO法人)TMAT
〒102-0083
東京都千代田区麹町3-1-1 麹町311ビル8F
TEL:03-3263-8136 FAX:03-5214-6664
E-mail:info@tmat.or.jp
制作:一般社団法人徳洲会編集室

紙面をリニューアル 第10号発行のご挨拶

TMAT理事長
福島 安義

平素から格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。TMATは2005年7月の設立から今期で12期目を迎え、この間、国内11回、海外14回の計25回、災害医療支援を実施しました。ここまで組織が成長できましたのも、ご支援いただいている皆様のおかげです。

「災害医療元年」と言われる1995年の阪神淡路大震災から20年が経過し、災害医療を取り巻く環境は大きく変化しています。国内では国が統括する災害医療支援チーム「DMAT」をはじめ、専門性の高い団体による迅速な支援体制が構築され、また海外ではWHO(世界保健機関)が世界各国の団体をEMT(Emergency Medical Team)として登録する制度を開始しました。災害医療を行う団体は迅速性に加え、「質」が求められるようになっています。

TMATは、このような流れの先頭に立つべく体制の充実を進めるとともに、今後も「生命だけは平等だ」の哲学の下、誠心誠意、活動に取り組んでいく所存ですので、ご支援、ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。また、第10号発行という節目に、紙面をリニューアルしましたので、引き続き、ご愛読いただけましたら幸甚です。



建物の1階部分が押しつぶされ倒壊した家屋

熊本地震による直接の死者は49人、震災関連死は20人で、負傷者は約1



医療ニーズを調査し診療を開始

熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震が発生したのは4月14日午後9時26分頃。直後にTMATは徳洲会東京本部内に緊急災害対策本部を設置、同日

午前1時25分頃に最大震度7の本震が発生。被害の拡大を受け、TMATは急きよ、支援規模を大幅に拡充して活動継続を決定。

同日朝の時点で、初動

740人に上った(6月20日時点)。避難者は地震発生直後に最大で約18万4000人には達した。熊本県熊本地方を震源とする最大震度7の地震が発生したのは4月14日午後9時26分頃。直後にTMATは徳洲会東京本部内に緊急災害対策本部を設置、同日

午前1時25分頃に最大震度7の本震が発生。被害の拡大を受け、TMATは急きよ、支援規模を大幅に拡充して活動継続を決定。

しかし、その矢先の16

午前1時25分頃に最大震度7の本震が発生。被害の拡大を受け、TMATは急きよ、支援規模を大幅に拡充して活動継続を決定。

しかし、その矢先の16

熊本地震

TMATは4月14日以降、群発する地震により甚大な人的・物的被害を受けた熊本県内の被災地に、続々と隊員を派遣した。発災直後から徳洲会グループを挙げた支援体制を構築、13日間で延べ125人(医師19人、看護師53人、薬剤師9人、その他44人)が現地入りし、大規模な災害医療支援を展開。南阿蘇村、御船町、熊本市南区の3地区で仮設診療所を設置したり巡回診療を行ったりし、計約1700人を診療した。約2週間にわたる活動内容を紹介するとともに、最大震度7の本震が襲った16日から翌17日にかけての支援の模様を報告する。

大規模な災害医療支援を実施 昼夜を問わず迅速に多方面展開

体制として、徳洲会の九州ブロックと関西ブロック

の複数の病院に隊員と救

急車両の参加を要請。福

岡病院、長崎北徳洲会病

院、大隅鹿屋病院(鹿児

島県)、八尾徳洲会総合

病院(大阪府)、松原徳

洲会病院(京都府)、宇

和島徳洲会病院(愛媛

県)、岸和田徳洲会病院

(大阪府)、東大阪徳洲会

病院の隊員らが動き始め

た。また午前10時頃には

橋爪慶人TMAT理事(東

大阪病院院長)が福岡病

院に入り、TMAT現地対

策本部を設置した。

各施設から救急車両に

乗り出発した隊員らは、

順次、拠点の福岡病院に

入った後、医療資材など

を搭載して同日昼以降、

次々と被災地に向かって

発。熊本県庁に設置され

た県災害対策本部や各地

の避難所、医療機関など

で、被災状況や医療ニ

ズなど情報収集を行い、

被害甚大ながらもその時

に徒歩で向かい巡回診

療所を設置したほか、

大規模な土砂崩れで孤立

した東海大学グラウンド

に徒步で向かい巡回診

療。また、もう1チーム

は医療ニーズの調査のた

め探索活動を継続した。



多くの被災者が身を寄せる益城町保健福祉センター

TMATは皆様からのご支援をもとに活動しております。ご協力お願いいたします。

1995年の阪神・淡路大震災での活動を契機にスタートしたTMATは、十分に医療を受けられずにいる国内外の方々を救護することを目的に活動している特定非営利活動法人(NPO法人)です。インドネシア・ジャワ島中部地震(2006年)、ハイチ大震災(10年)、東日本大震災(11年)、フィリピン台風被害(13年)など国内11回、国外14回、被災地に出動し医療支援活動を行っています。こうした私たちの活動は、企業・団体・個人の皆様からTMATの会員として資金協力ををしていただくことで支えられています。ぜひ、ご協力ください。

正会員年会費……………10,000円

個人賛助会員年会費……………3,000円(1口以上)

団体賛助会員年会費……………30,000円(1口以上)

■振込みによるご協力

振込先口座 ■郵便口座記号番号:00170-4-564249
■銀行名:ゆうちょ銀行 ■金融機関コード:9900 ■店番:019
■預金種目:当座 ■支店名:〇一九(ゼロイチキュウ)店
■口座番号:0564249 ■受取人:特定非営利活動法人TMAT

■クレジットカードによるご協力

http://www.tmat.or.jp/donate_on_the_credit/

※VISAカード、Masterカードご利用いただけます。



先遣隊を派遣 転院調整など実施



TMATは4月14日午後9時26分頃に熊本県で発生した最大震度7の地震に対し、同日に先遣隊派遣を決定、福岡徳洲会病院のメンバー6人が最も揺れが大きかった同県益城町に救急車で向かった。先遣隊は翌日午前2時に到着。希望ヶ丘病院や益城中央病院に駆け付け、患者さんの誘導や透析患者さんの転院調整などを行った。その後、避難所の益城町総合体育館に向かい、付近の患者さんの搬送など支援した。



初動のチーム以外にも17日には神戸徳洲会病院、生駒市立病院（奈良県）、湘南藤沢病院、成田富里徳洲会病院（千葉県）のチームが福岡本部に向け動きを開始し、それぞれ懸命に活動するTMAT

がまだ入っていない、または常駐しておらず、自力では医療にアクセスできない方々がいる避難所を訪れる被災者の方々の診療を行う一方で、そこを拠点に巡回診療にも力を入れた。医療チームがまだ入っていない、または常駐しておらず、自力では医療にアクセスできない方々がいる避難所を訪れる被災者の方々の診療を行う一方で、そこを拠点に巡回診療にも力を入れた。医療チーム

がまだ入っていない、または常駐しておらず、自力では医療にアクセスできない方々がいる避難所を訪れる被災者の方々の診療を行う一方で、そこを拠点に巡回診療にも力を入れた。医療チーム

がまだ入っていない、または常駐しておらず、自力では医療にアクセスできない方々がいる避難所を訪れる被災者の方々の診療を行う一方で、そこを拠点に巡回診療にも力を入れた。医療チーム

T隊員を激励するため、同日、藤木正幸・御船町長が同町保健センターを訪問。また、TMATの福島安義理事長、一般社団法人徳洲会の鈴木隆夫理事長や安富祖久明・副理事長が隊員らを激励に現地を訪れた。

このあとも全国の徳洲会病院から続々と隊員が駆け付け、仮設診療所の運営や巡回診療に力を入れると同時に、避難所のトイレ掃除を行ったり、ゾーニング（土足区域と非土足区域の区分け整理）を行ったりするなど、衛生環境の整備にも尽力した。

また南阿蘇の避難所では、深部静脈血栓症（エコノミークラス症候群）の予防体操をTMATの理学療法士が実施。TMAT隊員は各地区の医療ミーティングにも積極的に参加し、他の災害医療チームと連携をとりながら支援にあたった。



橋爪TMAT理事(右)を中心に対策を協議

「右足首を捻挫で痛めました。診てくれますか」4月17日午前6時半、60歳代の男性が御船町保健センターを訪れた。1階ロビーに仮設診療所を設け、患者さんを待っていたのは、TMATの高力俊策医師（湘南藤沢病院外科部長）、有本菜実子看護師（八尾病院看護師）、土山優子看護師（同）、瀧平絵美看護師（同）、浅海勇樹事務（同）の5人からなるチームだ。

高力医師は問診、患部の触診などをを行い、湿布薬を処置した。その後、今度は「のどが痛くて声が出ません。咳もあります」と訴える女性。聴診などをを行い「風邪のひき始めでしょう。お薬を出しておきますね」と感冒薬を手渡した。

その後も次々と訪れる患者さんに5人で対応。ここまで診療拠点に定めたのは、わずか数時間前の同日午前2時。早晨までに長テー



共同通信社記者から取材を受ける福島TMAT理事長

16日午後6時40分。病院を出発して12時間後には仮設診療所を設営し診療をスタートさせた計算だ。16日午後5時、TMATは午後8時50分頃。あたりの道路は地震の影響で所々隆起や陥没があり、慎重な運転が求められた。沿道には全半壊の建物が暗闇のなか浮かび上がり

地元の激しさを物語ついていた。約2000台収容の駐車場があるグランメッセ熊本という大型催事施設

などを見回し、医療ニーズなどの情報を収集。

その結果、病院支援ではなく避難所での救護所立ち上げの二丁目が見込まれたことから、避難所関連の情報収集を継続。御

船町の保健センターなどに合計2000人の避難者がいることを確認し、日付が変わって17日午前1時35分に同センターに到着。職員によると避難者のみで対応は3人の保健師のみで対応し、医師は1人もいない苦しい状況が続いている。

TMATに対し支援要

ります」と訴える女性。聴診などをを行い「風邪のひき始めでしょう。お薬を出しておきますね」と感

る。その後も次々と訪れる患者さんは5人で対応。ここまで診療拠点に定めたのは、わずか数時間前の同日午前2時。早晨までに長テー

行つた。

17日午後5時、TMATの福島安義理事長が御船町保健センターに到着。

そこから、被害が最も大きい南阿蘇地域に向かつた。道路が寸断され孤立した地域だけに、ドクター

カーや救急車が運行できず、その結果、医療ニ

ーズなどを訪問し、医療ニ



救急車に医薬品など物資を積み込む



小児の患者さんに優しく笑顔で接する



福岡病院ER(救急外来)前で橋爪慶人TMAT理事(左)から注意事項の説明を受ける



熊本医療センターで情報収集にあたる



現地対策本部の福岡徳洲会病院で打ち合わせする隊員



力合中学校で活動拠点開設前に打ち合わせ



御船町の体育館に避難している多くの地域住民の方々



御船町保健センターで手の治療にあたる

熊本県で大きな余震が断続的に発生するなか、TMAT隊員たちは昼夜を問わず懸命に災害医療活動に従事。水・食料、医薬品……すべてが不足している状況でも、隊員からは「被災者の皆さんのために頑張る」と力強い言葉が発せられた。活動拠点には次々に老若男女の患者さんが訪れ、隊員の姿を見ると、一様に安堵の表情を見せていた。4月16日夕刻以降の災害医療活動を写真グラフで振り返る。

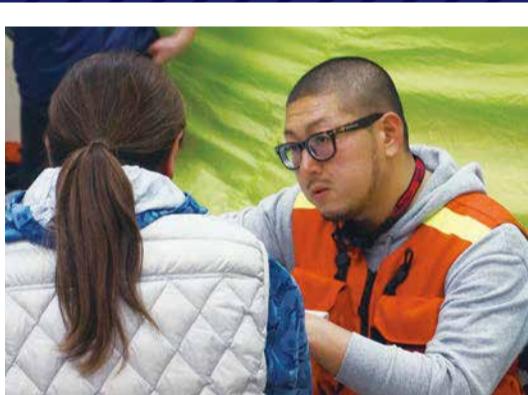
収まらぬ余震——足りない医薬品・水・食糧

「被災者の皆さんのために頑張る」

写真グラフ——熊本地震でのTMATの活動



隊員の輸送にも力を発揮する救急車



昼夜を問わず診療にあたる



高齢の患者さんの言葉に真剣に向き合う



力合小学校の保健室で患者さんに、にこやかに応対



南阿蘇村の体育館に到着した救急車



南阿蘇村の体育館に避難している約800人の方々



福島TMAT理事長に状況を説明する隊員ら



益城町で地震の強い揺れにより激しく損傷した建物



南阿蘇村で巡回診療を積極的に行う



国際会議に参加した(左から)高力医師、野口・事務局員、石田隊員

TMAT 世界的な災害医療体制を討議

中米のパナマで国際会議に参加

TMATは2015年12月1日から3日間、中米のパナマ共和国で開催された「EMERGENCY MEDICAL TEAMS Global Meeting(緊急医療チーム国際会議)」に隊員3人が参加した。同会議を共催したWHO(世界保健機関)とPAHO(全米保健機構)からの招待により実現。同会議には世界中から災害医療にかかるキープレーヤーが集まり、今後の国際災害医療体制について幅広く討議した。

TMATは2015年12月1日から3日間、中米のパナマ共和国で開催された「EMERGENCY MEDICAL TEAMS Global Meeting(緊急医療チーム国際会議)」に隊員3人が参加した。同会議を共催したWHO(世界保健機関)とPAHO(全米保健機構)からの招待により実現。同会議には世界中から災害医療にかかるキープレーヤーが集まり、今後の国際災害医療体制について幅広く討議した。



世界中から多くの災害医療関係者が参集

「国際的な災害医療の世界では、より効率的に質を担保した医療が適切に行われるよう、国連機関であるOCHA(国連人道問題調整事務所)が各国から被災地入りするチームを調整・統率する仕組みが、OCHAへの登録・報告などが求められるようになつてきました。こうした動向をふまえ「TMATも201

5年4月のネパール大地震を含め近年は入国後すぐに入国して支援する側にとつても、支援を受ける被災国側にとつてもプラスになります。国際的な支援の枠組みに協力的な姿勢や活動実績が評価され、TMATは今回、同会議に招待されたのです」(野口・事務局員)。

会議場では、13年フライ

erin台風や15年ネパール大地震の医療支援で連携を取ったレスキューネットUSAや、11年の東日本大震災後に徳洲会病院を含む各地で放射線や災害医療ヨーネクメディクスという海外NGO(非政府組織)のスタッフと再会し、情報交換するなど旧交を温め

るひと幕もあった。

そのためには、まず日本



国際的な協働体制の強化などについて議論

続けて「EMTとしての登録や活動報告などに関する国際的な枠組みについての課題だと感じました。

そのため横の連携を取つて重要だと考えます」と感想を語る。

TMATの鈴木隆夫・副理事長(一般社団法人徳洲会理事長)、橋爪慶人理事(東大阪徳洲会病院院長)らは2014年12月、アフリカのジブチ共和国を訪問し、イスマイル・オマール・ゲレ大統領ら要人と面談、同国の医療を支援するため医療施設などを視察した。

これまで徳洲会グループとジブチは同国の医療支援について協議を重ねてきた。今回、TMAT幹部が同国を訪問したのは、同グループのプロジェクトにTMATとしても参加できないか検討するためだ。

鈴木・副理事長、橋爪理事らは大統領をはじめ首相、労働相、保健相ら要人と会談、病院建設プロジェクトの詳細について説明を受けた後、3ヶ月に亘る病院用地や既存のクリニック、透析センターなど医療関連施設も視察した。

橋爪理事は「TMATは国際医療協力も活動の柱に据えています。開発途上国の医療の発展に少しでも力になりたい」と意気込みを見せている。

第21回日本集団災害医学会 隊員らが演題を発表

救護団体連絡会議に参加も

第21回日本集団災害医学会総会・学術集会が2月27日から3日間、山形県で開かれた。メインテーマは「むかしはいま、いまはむかし、未来はいま」。徳洲会グループの病院に

出席した。

同会議は大規模災害時に被災地を支援する組織・団体(民間含む)と、円滑に医療を実施できるよう調整する災害医療コメディネーターが一堂に会し、「顔の見える関係」を構築するのが目的。昨今、NPO法人などを含むさまざま民間の支援団体が

オールジャパンで貢献へ

今後の目標として高力医師はロジスティクス(移動・通信手段や食糧・医薬品など物資を確保したり国連機関や他チームとの交渉・調整を行つたりする後方支援業務)の強化・充実を掲げる。高力医師は、海外の有力なEMTでは医師や看護師など医療担当のスタッフが充実していることを指摘。

「ロジは絶対に必要な存在です。TMATでもロジの専門家をもっと育成する必要があります。『自分の職種では患者さんを直接ケアできない』、『海外にまで行つてもおそらく役割がない』などと諦めていた方たちにこそ、ぜひ手を挙げてほしいと考えています。職種は問いません。まずはTMATが主催する災害救護・国際協力ベーシックコースを受講していただきたい」と高力医師

ジブチに医療協力 橋爪理事「力になりたい」



病院建設用地で現地の国営テレビの取材に応じる橋爪TMAT理事(左)、鈴木TMAT副理事長(右から3人目)ら

TMATの鈴木隆夫・副理事長(一般社団法人徳洲会理事長)、橋爪慶人理事(東大阪徳洲会病院院長)らは2014年12月、アフリカのジブチ共和国を訪問し、イスマイル・オマール・ゲレ大統領ら要人と面談、同国の医療を支援するため医療施設などを視察した。

これまで徳洲会グループとジブチは同国の医療支援について協議を重ねてきた。今回、TMAT幹部が同国を訪問したのは、同グループのプロジェクトにTMATとしても参加できないか検討するためだ。

鈴木・副理事長、橋爪理事らは大統領をはじめ首相、労働相、保健相ら要人と会談、病院建設プロジェクトの詳細について説明を受けた後、3ヶ月に亘る病院用地や既存のクリニック、透析センターなど医療関連施設も視察した。橋爪理事は「TMATは国際医療協力も活動の柱に据えています。開発途上国の医療の発展に少しでも力になりたい」と意気込みを見せている。



(右から) TMATの野口・事務局員、八尾徳洲会総合病院の有本菜実子看護師、福岡徳洲会病院の坂元孝光医師、鹿児島徳洲会病院の中村幸司ICU(集中治療室)師長、石田亜紗子隊員(湘南鎌倉総合病院国際医療支援室職員)